



# 川中だより

令和5年7月27日(木)発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第4号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

校長 清水 謙一

先日、生徒会の「考える箱」に、生徒から「新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきたので、給食を向かい合わせて食べたい」という投書がありました。私は校長として、我々教職員が方針を一方向的に決めて、生徒に伝えるだけではもったいないと考え、生徒会総務の生徒達と校長室で話す場を持ち、全校集会でこのことについて話題にすることにしました。

7月3日の全校集会の校長講話の中で、以下のことを生徒に伝えました。

- ① この投書は他の生徒たちの気持ちを代弁した素敵な投書であること
- ② こういった意見がある一方で「家族に感染させられない」等の思いから向かい合わせて給食を食べることに反対する意見もあること
- ③ 全校生徒85名いれば、85名の考え方があること
- ④ このことについて各学級で話し合う場をいずれもちたいと思っていること
- ⑤ 話し合いは、簡単に多数決で決めるのではなく、どうすればみんなが納得できるかということを前提にアイデアをたくさん出し、最適解を出してほしいこと
- ⑥ こういった話し合いは、大人になっても必要なことで、自立した人に成長するには、自分の意見を持ち「よりよい川東中」を作るために積極的に話し合っしてほしいこと

これを受け、早速3年生では社会科の公民分野の時間に、このことを話題に話し合いの場を設けてくれました。その様子を聞かせてもらうと、やはり「向かい合わせて食べたい」という意見と「今まで同様正面を向いて食べたい」という意見に分かれたそうです。

私自身、校長として生徒やその家族の安心安全を守るために、何が一番良いかについて最終的に判断したいと考えていますが、このような活動やそのプロセスを通じて、生徒一人一人が「自分たちの学校をより良くしたい」という気持ちを主体的にもち、そのためには何が必要かを考え、実行する力を身につけていってほしいと考えています。

中学校3年間の中で、教科の学習や部活動などの自分の目標に向かって頑張ることもとても意義深いですが、それと同じくらいこういった活動は大切です。多様な価値観の中で予測が難しいこれからの時代は、氾濫する情報から必要な情報を自ら収集し、何が正しいかを選別しながら、その情報をもとに自分で考え、他者と合意形成を図りながら自ら判断し、よりよく生きようとする力を身につけていくことが必要です。

保護者の皆様におかれましては、もしご家庭で子ども達からこのような話題が出てきた時は、積極的に子どもと話し合う場を設けていただき、「大人の判断が正しい」と一方向的に伝えるのではなく、「大人からはこう見える」「大人の私はこう感じる」「私はこう考える」と伝え、子どもたちが考える一つの材料を与えていただければ幸いです。

さて、一学期が終わり、夏休みを迎えます。85名の全ての生徒にとって、学習、部活動、遊び、家族との思い出、お手伝いなど何事にも充実した夏休みにしてほしいと思います。事故等に気をつけ、9月1日に生徒全員と明るい笑顔で会えることを楽しみにしています。